

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分  
例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67 (八幡建設 2F)  
TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005  
E-mail: rc-8man@abeam.ocn.ne.jp  
URL: http://gujohachiman-rc.com/

会 長：林 健吉  
副 会 長：岩尾 誠  
幹 事：和田英人  
広報委員長：松森 薫  
会報担当者：廣瀬泰輔・渡邊 剛

2018 年度国際ロータリー会長：バリー・ラシン (East Nassau ロータリークラブ・バハマ)

2018 年度国際ロータリーテーマ：Be The Inspiration (インスピレーションになろう)

<本日のプログラム>

第 2572 回 平成 30 年 8 月 22 日 第 4 水曜日  
社会奉仕例会  
(午後 6 時より慈恵中央病院にて)

<次回の予定>

第 2573 回 平成 30 年 8 月 30 日 第 5 木曜日  
会員増強卓話  
河合 修会員

<前回の記録>

第 2570 回 平成 30 年 8 月 9 日 木曜日

物故者法要

法音寺 郡上八幡支院 上人様

司 会 進 行	大川達也副 SAA
点 鐘	林 健吉会長
ソ ン グ	郡上八幡ロータリーの歌
来 客 紹 介	和田英人幹事

法音寺郡上八幡支院 上人様

物故者法要

法音寺郡上八幡支院 上人様による読経



出席報告 竹内巧治担当責任者

会員数	出席	補正	出席合計	出席率
40 名 (免除 1 名)	30 名	7 名	37 名	92.5%

ニコボックス 奥村芳弘担当責任者

- ・法音寺郡上八幡支院 上人様 お世話になります。宜しくお願ひ致します。 林 健吉
- ・法音寺郡上八幡支院 上人様 本日よろしくお願ひします。 和田英人
- ・法音寺 上人様 御世話になります。 小坂慶一

・法音寺郡上八幡支院 上人様

物故者法要ありがとうございました。

羽田野優男・平岩憲正・岩尾 誠・河合 修  
國田大雄・松森 薫・水上成樹・森下 光  
村土時男・西川 昇・西村 肇・小笠原正道  
大畑於左武・大川達也・奥村芳弘・酒井智義  
坂本 仁・竹内巧治・渡邊 剛

※法音寺様よりお布施をクラブへ頂戴しましたので、ニコ BOX に投函させて頂きました。

幹事報告 和田英人幹事

- ・RI 日本事務局財団室より「寄付・認証 ロータリークラブの手引き」について
- ・地区事務所 米山記念奨学部門委員会より、米山寄付額納明細・奨学生世話クラブについて
- ・ガバナーエレクト事務所より夏季休暇のお知らせ
- ・美濃 RC より、東海北陸道グループ 8 月幹事会議事録
- ・可児・各務原中央 RC より例会変更のご案内

<拝受>

・関中央 RC より会報

IDM報告 森下 光会員

テーマは会員増強・会員維持でした。議題提供者・川井会員より：会員増強とは地域奉仕活動推進のために必要な人材確保を行い、クラブ存続を図るものである。その条件として 1. 新会員の勧誘 2. 現会員の退会防止 3. 新クラブの結成と定義されている。職業分類とは、地元地域における職業をリストアップして、その中で専門職務をクラブに反映できる人材の確保を行い組織の確立が奨励される。職業分類をしてから会員推薦を行うとされている。講師・河合修会員より：1. 会員増強の必要性 目的ではないが存続と発展のために

必要である。2. 会員増強の目的と計画の共有 会員全員が地道に根気よく声掛けをする。理事役員を筆頭に目標を定めて取り組む。3. 地域に影響力のありそうな女性会員の積極的な勧誘。まとめとして、我々は縁あってクラブに入会し、皆さんと共有する時間を大切にして楽しんでいる仲間であることを理解してもらい、一緒に活動を行う事を楽しいと思えるクラブであることを呼びかけることが大切ではないでしょうか。

#### 委員会報告 竹内巧治社会奉仕委員長代理



22日(水)

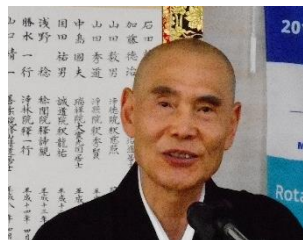
社会奉仕例会の案内  
場所：慈恵中央病院にて  
点鐘：午後6時  
浴衣持参でお願いします。  
例会終了後、着替えて参加して下さい。

#### 会長の時間 林 健吉会長

先ほどは法音寺上人様には大変ありがたいお勤めを頂きまして、ありがとうございました。この後は講話をよろしく申し上げます。

#### 講話 法音寺郡上八幡支院 上人様

皆様、こんにちは。暑い中をお集り頂きまして、ご苦勞様でございます。今年もまたこうやってお招きに預かり、本当に感謝しております。ありがとうございます。酷暑というほどの暑い毎日が続いております。7月には大雨が降り、それが終わってからは一滴の雨も降らず、人間だけでなく植木や何物かもが悲鳴を上げているような、そんな気がします。皆さんはとてもお元気そうで、何よりだと思います。お見舞い申し上げます。



新たな異常気象時代とメディアでよく取り上げられていますが、“今までに経験したことのない”あるいは“想定外”という被害が各地で起きております。お陰様で郡上八幡はそう酷い被害というのは今回もありませんでした。少し前ですがテレビを見ておりましたら、異常気象というがこれは元に戻ったのだと仰っていました。地質学者の地球物理学の専門家の先生ですが、元々地球というのはもっと酷い状況だったが、人間がこの世に出現した時からたまたま安定したのであって、今この安定している時が異常であり地球そのものは元々災害だらけで、そろそろ本来の姿に戻るのだと話しておられました。それだけではなく、もし人類がこの地球をこれからもずっと住処としていくなら、一つ大切なことを心得て下さいと仰った。それは全てが当たり前だという心を無くし、意識を改めて頂きたいと。そうすればこの地球は人間と共に末永く暮らしていけるだろうと言われました。それを聞いて私共仏教を心掛ける者は、仏様

の教えに「当たり前」というのが常にあるので、学者さんもそういうことを仰るのだと改めて感心しました。仏教では「当たり前」という心は余り良く思われていません。それは、感謝の心を忘れた煩惱と言われるからです。簡単に言うと煩惱とは「好きな時に、好きなことを、好きなだけしてみたいな」という気持ちです。「当たり前」というのは、今の自分が置かれた状況が感謝できないことですので、「当たり前の心」から「有難いの心」へ変えるというのがお釈迦様の根本原理です。感謝の心を育むには当たり前の心を止めて、全て有難いという心に移行するように教えられます。経済や人と人との繋がり、災害においても180° 変わるようなことが起きています。いつどこで何が起こってもおかしくない時代なのかなと改めて思う次第です。昔はこんな事は無かったと言われますが、同じ災害の頻度・状況でも昔は社会資本も国も非常に貧しかったので、そこで起こる災害は今の比ではありません。今、台風が1回通過すると500年前・300年前に通過するのでは大違いだと私は思います。そう考えると昔はもっと酷かったというのも間違いではないかもしれません。その中で私共の先祖は、色んな災害をその時々皆で力を合わせ、感謝し喜びを見つけて辛苦を乗り越えてこられました。そこで育まれるのが、忍耐と寛容などだと思います。少しでも辛抱をして蓄えをして、もしもの時に備えようとする、これは日本ならではの事だと思います。そこから育まれる日本人の国民性というのは皆さんご存知のように、災害の度に外国から賞賛の声が上がります。

時代も変わり、人も変わったと思います。世の中すごく便利になって豊かになりました。ところが、どんなに変わっても変わらないものがあります。それは「この世は無常だ」と、仏教では移り変わらないものは何もないという原則です。そして「人界」というのは長続きしない。つまり、良い事も悪い事も長くは続かない。変わらないことと長続きしないことは、昔も今も同じだと思います。そういう世の中で仏教は、一喜一憂することなく短絡的にならずに今日一日心元気で仲良く暮らす、というのがお釈迦様の理想です。人生100年時代と言われますが100年は長いです。昭和の初めは50年に満たなかったと言われますから、ちょうど倍です。よく人生は山登り、登山に例えられます。登山には必ず下山があります。私の友達に登山家の方がおりますが、登山家にとっては山の麓へ降りてくるのが目的なのだと言っています。登るのが目的なのではないのかと聞いたところ、そうではなく登るのはむしろ簡単で下るのが大変だと言われました。人生に例えると50年が頂上だとすると後の50年は下り坂ですが、この下り坂をどうやって下るのかということが大きな問題だと思いました。長い老後をゆっくり老いる時代、病

気もあるかもしれない、災難もあるかもしれない。そういった中で短絡的にならず、今日も元気で命があって有難いと思えるような気持ちになるのはなかなか骨です。こんな方がおりました。90歳近いおじいちゃんです。お寺に来られて「私の嫁さんがうるさい」と言われるのでどうされたのか尋ねると、「おじいちゃんは暗い。もっと前向きに生きないといけない。暗いから物忘れが激しい。



散歩でもして、よその人と話をしてコミュニケーションを取りなさいとおばあさんに言われるが、前を向けば向くほど棺桶がある！」と仰いました。私は思わず吹き出しそうになりました。そのおじいちゃんは冗談半分に言われたのですが、前を向けば向くほど、前を向いて歩いて行けば行くほど死が迫ってくるということです。その方は物忘れをすとも仰いました。仏教ではお釈迦様がこんな事を言っておられます。「覚えなくてはならないことがなかなか覚えられなくなった人は“忘業”をなさい」と。どんなことかという覚えなくてもいいことを覚えないように、つまり忘れるようにする。忘れてはいけないことを覚えようと思ったら忘れた方がいいですよ、水に流した方がいいですよということです。“あの時あいつがあんなことをやった”といつまでも覚えていないで早く忘れないと物忘れが酷くなると仰ったのはお釈迦様です。かと言って物忘れの酷い方がみんなそうかという、そう短絡的に捉えてもいけません、忘れた方がいいことをなかなか忘れられないのが、私たち人間なのかもしれません。

こんな方もみえました。80歳になった時に「私の人生に老後はない。人間生きている限り元気でなければ生きている甲斐がない」と仰った方がいました。

「おしん」という脚本を書かれた脚本家の橋田寿賀子さんは、橋田さんを“お母さん”と慕う泉ピン子さんから「お母さん、あんたももう年だからこれを使いなさい。」と手押し車を貰いました。橋田さんは「私を年寄り扱いしてはいかん」と追いつ返し、仕方がないので手押し車を押し入れにしまっておきました。橋田さんが88歳になった時、それまで毎年のように人間ドックに行き自分の体をサポートしてきたのに、体のあちこちが痛み、物忘れも激しくなり、毎年行っていた豪華客船での旅行にも行けず、外国へ行くためのパスポートの申請にさえも行けなくなりました。ついに手押し車が必要になり、押し入れから玄関に出したと仰っていました。まさに諸行は無常です。

また、90歳近いこんな方もみえました。「私はこの年になると、あれがしたいとかこれが欲しい

とか無くなった。その代わり、もしもの時にあまり周りに迷惑をかけたくないと思うようになった。」と言われました。もしもの時というのは晩年、亡くなる時のことですが、それは何故かという「年を重ねるごとに鬱陶しがられるお年寄りもいる。年を取るごとに嫌がられるお年寄りもいる。私は、そういう人にはなりたくないのだ。」と。お寺に来てご先祖に感謝をされて、良いお話を聞かれて少しでも心が休まれば有難いと思いますがとお話しました。それからたまに来られるようになりました。

死んでいく時に持って行けるもの、それは仏教では『業』だと言われます。業というのは、人が心持ちを持ってどんな心持ちでどんな行いをするか、その結果です。つまり、どれだけ罪を作るのか、どれだけ徳を積むのかということでしょう。よく『人徳』と言われます。その二つは嫌だと言っても付いてきます。“生涯四人の妻を持つ男”という逸話が、お釈迦様の例え話としてお経文に載っております。長い老後をどうやって生きるのかということが、その『業』を左右すると言われます。そういう時代を生きていくには、小さな覚悟のようなものがあるのかなと私自身思います。そんなに大層なものではありません。良いことがあっても、私だけのものではない皆のおかげだ、ご先祖様のおかげだなと有頂天にならないよう心掛ける。悪いことがあっても暗く後ろ向きにならず、ひとつの試練だと思って将来の糧となるよう毎日の行いに徳を積むことが大事だと、お盆になると改めて思います。当たり前前心から感謝の心へシフトをするのがお盆だと思います。ご先祖様からの命のおかげで今ここにいる訳ですから、今日命があることに感謝をして命を再確認することがお盆だと思います。そして、その命をどう使うのかと考えるのがお彼岸だと思います。

これからまだしばらくの間暑さが続くと思います。それぞれの会社や地域、ご家庭で当たり前前心から有難い心へシフトできるようなことがあれば、それが別の意味での『避暑』であり、暑さを凌ぐ元になれば幸いです。ありがとうございました。

---

## お知らせ

郡上市産業支援センター センター長 田中義久様より、次回例会時「社旗を作ろうコンテスト」についてのご説明、センターの目的・活用についてのお話があります。例会の冒頭5分ほどですが、よろしくお祈りします。